

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども学科	実施学年	1学年	開講期	後期		
科目名	日本国憲法	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	三科 俊	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	弁護士として法律事務所に在籍・勤務						
授業のねらい (到達目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法の基本観念と人権の概念について概念を説明することができる 2. 日本国憲法の基本原理と人権保障・統治構造の概念を説明することができる 3. 日本国憲法上の重要条文について通説・判例の見解を説明することができる 						
授業概要	日本国憲法の特徴と全体像が理解できるような授業を行う。 日本国憲法の基本原理と具体的な条文とを架橋する体系的な説明を行うことによって日本国憲法の基本的事項・重要事項の理解をはかる。						
テキスト	「憲法」豊岡短期大学						
授業計画	第1回	憲法と立憲主義					
	第2回	日本憲法史、日本国憲法の構成と基本原理					
	第3回	象徴天皇、平和主義の原理					
	第4回	人権宣言の歴史、人権の観念と類型					
	第5回	人権の享有主体、人権保障の限界					
	第6回	私人間における人権の保障と限界、包括的基本権①					
	第7回	包括的基本権②、法の下での平等					
	第8回	精神的自由権①					
	第9回	精神的自由権②					
	第10回	人身の自由、経済的自由					
	第11回	社会権①					
	第12回	社会権②					
	第13回	国務請求権、参政権、国民の義務					
	第14回	統治機構					
	第15回	財政、地方自治、憲法の保障					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	通年(前期)		
科目名	情報処理 I 情報リテラシーと処理技術	授業形態	演習	単位数	1 単位		
担当教員	長谷川 直子	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	民間企業のパソコン部門でのインストラクター業務、また、人材派遣会社の研修部門でのパソコン研修指導およびパソコンヘルプデスクを担当。初心者から上級者まで幅広い実践的な技術指導を行う。ヘルプデスクでは、派遣社員のパソコン実務に関する質疑応答を電話によりリアルタイムで行う。						
授業のねらい (到達目標)	幼稚園や保育園などの教育機関において、掲示物・おたより・お知らせ文書ほか文書を必要とする書類などを作成する際にWordの知識と技術が必要となる。本教科では、Wordを基礎から学習し効率的に活用できるスキルを身につける。また、情報システムと社会生活について理解する。Excelの基本を理解する。						
授業概要	演習を通じ、パソコン環境設定、基本操作、Wordの基礎から活用操作まで学習し、MOS検定合格を目指す。また、テキスト教材を中心に情報システムとセキュリティ、コンピュータ、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深める。 Excelの基本操作を学習する。						
テキスト	MOS攻略問題集Word2019・情報リテラシーと処理技術						
授業計画	第1回	本演習のガイダンス、PC環境設定①					
	第2回	PC環境設定②					
	第3回	PC環境設定③					
	第4回	情報システムと社会生活との関わりについて					
	第5回	情報セキュリティ					
	第6回	コンピュータとインターネット					
	第7回	Windowsの基本操作、タッチタイピング、文字入力について					
	第8回	Wordの基本操作、新規文書の作成					
	第9回	文書の編集①					
	第10回	文書の編集②					
	第11回	表やリストの管理①					
	第12回	表やリストの管理②					
	第13回	参考資料の作成と管理					
	第14回	文書の共同作業の管理					
	第15回	科目試験					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	通年(後期)		
科目名	情報処理 I 情報リテラシーと処理技術	授業形態	演習	単位数	1 単位		
担当教員	長谷川 直子	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	民間企業のパソコン部門でのインストラクター業務、また、人材派遣会社の研修部門でのパソコン研修指導およびパソコンヘルプデスクを担当。初心者から上級者まで幅広い実践的な技術指導を行う。ヘルプデスクでは、派遣社員のパソコン実務に関する質疑応答を電話によりリアルタイムで行う。						
授業のねらい (到達目標)	幼稚園や保育園などの教育機関において、掲示物・おたより・お知らせ文書ほか文書を必要とする書類などを作成する際にWordの知識と技術が必要となる。本教科では、Wordを基礎から学習し効率的に活用できるスキルを身につける。また、情報システムと社会生活について理解する。Excelの基本を理解する。						
授業概要	演習を通じ、パソコン環境設定、基本操作、Wordの基礎から活用操作まで学習し、MOS検定合格を目指す。また、テキスト教材を中心に情報システムとセキュリティ、コンピュータ、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深める。Excelの基本操作を学習する。						
テキスト	MOS攻略問題集Word2019・情報リテラシーと処理技術						
授業計画	第1回	グラフィック要素の挿入と書式設定1					
	第2回	グラフィック要素の挿入と書式設定2					
	第3回	Excel基本(表作成と数式関数)					
	第4回	Excel基本(表作成と数式関数 演習)					
	第5回	Excel基本(グラフ作成)					
	第6回	模擬1(演習)					
	第7回	模擬1(テスト)					
	第8回	模擬2(演習)					
	第9回	模擬2(テスト)					
	第10回	模擬3(演習)					
	第11回	模擬3(テスト)					
	第12回	模擬4(演習)					
	第13回	模擬4(テスト)					
	第14回	模擬5(演習)					
	第15回	模擬5(テスト)					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	通年(前期)		
科目名	総合学習	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	阿部 裕子	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	公立、私立保育園及び認定こども園での23年の勤務経験から、現場で役立つ保育教材全般について実践的な授業を行う						
授業のねらい (到達目標)	絵本や紙芝居の読み語りの基本的な技術をはじめ、様々な保育技法を習得する 制作の際必要となる基本的知識技術を学び、保育グッズを実際制作したり実技方法について考える						
授業概要	絵本や紙芝居の年齢別選び方やポイント、持ち方、読み方について学び実演をする 手あそびモノ遊びなどを覚えて実際にやってみる 壁面装飾や制作あそびに必要な基本等を実際の素材や道具を使用し学び合う 自分なりの工夫を凝らして保育グッズを作る できたら演じて見せ合う						
テキスト	「基本の遊びと広げ方」「すきま時間あそび107」&必要に応じてプリント						
授業計画	第1回	前期の授業内容・採点方法について 図画工作室の使い方片付け方 道具箱の中身の説明・使い方・実際に使ってみる					
	第2回	手あそびについて学び、様々な年齢に向けての手あそびの実演を参考に実際にやってみる テキスト「基本のあそびと広げ方」&プリント 手あそびは、前期末までに一人最低でも20曲覚える					
	第3回	絵本の年齢別選び方、持ち方・読み方について学ぶ					
	第4回	自己紹介や絵本の導入に使える手あそびと、絵本の終わり方について					
	第5回	紙芝居の年齢別選び方・めくり方・仕掛けについてと読み方の実演					
	第6回	制作のための基本的な知識と指導のポイントや裏技について プリントや実際の物を確認しながら、教材の素材と利用の知識やコツを知る					
	第7回	簡単なペーパースーツ・カードシアターなど年齢別に様々な実演を見たり、資料を調べたりしながら自分の作りたい物を決められるようにする					
	第8回	制作を開始する					
	第9回	全員完成を目指す					
	第10回	実際に演じて見せ合い、子どもたちの前での実践方法を考えながら学び合う					
	第11回	保育で使用するグッズ第2段の制作 スケッチブックシアター(自己紹介用を含む)					
	第12回	↓					
	第13回	↓					
	第14回	完成した者から演じる練習をする					
	第15回	各自が覚えた手あそびを披露し合い、全員で共有する					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	通年(後期)		
科目名	総合学習	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	阿部 裕子	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	公立、私立保育園及び認定こども園での23年の勤務経験から、現場に役立つ保育教材全般について実践的な授業を行う						
授業のねらい (到達目標)	子どもが楽しめるグッズを作り、遊び方を考えて確実に使える物にする いろいろな素材に親しんで、保育のポケットを充実させることで技術の向上を図る						
授業概要	保育現場で役立つ制作や、いろいろな素材を使ったあそびを体験し、その応用を考える 個人やグループでの発表の経験を積み、遊び方や基本的な技術を習得する						
テキスト	テキスト「基本の遊びと広げ方」「すきまあそび時間107」&プリント						
授業計画	第1回	「すきま時間あそび107」であそぶ					
	第2回	オリジナルのネタ帳作成					
	第3回	保育現場で役立つグッズ制作(ペープサート・パペットなど) part①					
	第4回						
	第5回	▼ 完成した者から、遊び方を考える					
	第6回	発表する					
	第7回	保育現場で役立つグッズ制作(不思議カード、変身紙皿など) part②					
	第8回	身体を動かすあそび・遊戯系など					
	第9回	保育現場で役立つグッズ制作(手袋シアターなど) part③					
	第10回						
	第11回	▼					
	第12回	パネルシアターについて学ぶ 自分の作りたい物を決める 制作開始					
	第13回						
	第14回	▼ 完成した者から演じる練習をする					
	第15回	発表する					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	後期		
科目名	英会話	授業形態	演習	単位数	2単位		
担当教員	堀切修宏	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	小学校での外国語活動の教育、中学、高等専門学校でのCLILを用いた教育実践、学習塾の運営						
授業のねらい (到達目標)	幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、保育現場で英語を使う機会も増えている。本科目では英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場で必要な英語表現を運用できる力を身につけることを目標とする。						
授業概要	英文法の基礎を学習し、英文読解のルールを用いて英文を読んでいく。また保育の現場での様々な生活場面を題材にした英文や英語表現の学習を通して、保育者と子どもや保護者とのコミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。						
テキスト	「英語コミュニケーション」豊岡短期大学						
授業計画	第1回	英語の文法(動詞、形容詞・副詞)					
	第2回	英語の文法(比較、代名詞、疑問詞)					
	第3回	英語の文法(進行形、完了形、受動態)					
	第4回	英語の基礎構文(5文型)と英文読解のルール					
	第5回	英語の基礎構文(修飾句)					
	第6回	英語の基礎構文(接続詞、仮定法)					
	第7回	入園準備の際に用いる英語表現					
	第8回	登園・降園の際に用いる英語表現					
	第9回	室内遊びの際に用いる英語表現					
	第10回	外遊びの際に用いる英語表現					
	第11回	健康・病気・けがの際に用いる英語表現					
	第12回	運動・お散歩の際に用いる英語表現					
	第13回	食事の際に用いる英語表現					
	第14回	工作・お絵かきの際に用いる英語表現					
	第15回	おたより・行事の際に用いる英語表現					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	後期		
科目名	運動遊び	授業形態	実技	単位数	1単位		
担当教員	池 茜	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	大学・短期大学等で講師として						
授業のねらい (到達目標)	生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を養う						
授業概要	各種のスポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わう。 仲間と身体活動を行う中で、自己の体力・健康の保持・増進を図る。						
テキスト	特になし						
授業計画	第1回	ラジオ体操・器械運動					
	第2回	ソフトバレーボール①					
	第3回	ソフトバレーボール②					
	第4回	バレーボール①					
	第5回	バレーボール②					
	第6回	バドミントン①					
	第7回	バドミントン②					
	第8回	ポートボール①					
	第9回	ポートボール②					
	第10回	バスケットボール①					
	第11回	バスケットボール②					
	第12回	スケート①					
	第13回	スケート②					
	第14回	ドッジボール①					
	第15回	ドッジボール②					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:服装及び授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	後期									
科目名	教育原理	授業形態	講義	単位数	2単位									
担当教員	斎藤 真	実務経験の有無		○										
実務経験教員の経歴	宮城県小中学校1.5年, 山形県小学校9年, 国立大大学及び大学院におけるティーチングアシストおよびティーチングサポート(授業支援, 学生支援)2年, 私大教員養成学部の教育研究職助手5年													
授業のねらい (到達目標)	教育思想, 世界の近代教育史, 日本の江戸末期から令和にいたすまでの大まかな教育史を学ぶことにより, 教育に関心を持ち, 理解を深められるようです。また教育制度面の特徴をつかめるようにする。													
授業概要	教育の基本的概念, 制度, 歴史面について理解を深めるとともに, 教育とは何か, 学校とは何かについて, 仕組みや方法, 意義をつかむ。													
テキスト	豊岡短期大学「教育原理」													
授業計画	第1回	オリエンテーション「教育」「学校」「先生」-教育とは何か-												
	第2回	「教育」とは何か -ヒトとチンパンジーとの違い-												
	第3回	教育思想家												
	第4回	教育思想家												
	第5回	「教育」の歴史 -近代日本の教育(江戸末期)-												
	第6回	「教育」の歴史 -近代日本の教育(明治・大正)-												
	第7回	「教育」の歴史 -近代日本の教育(大正)-												
	第8回	「教育」の歴史 -近代日本の教育(昭和)-												
	第9回	「教育」の歴史 -近代日本の教育-												
	第10回	幼小の接続												
	第11回	幼小の接続												
	第12回	教育における今日的課題												
	第13回	教育における今日的課題												
	第14回	諸外国の教育												
	第15回	諸外国の教育												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <td>期末</td> <td>中間</td> <td>平常</td> <td>出欠</td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	前期		
科目名	保育者論	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	斎藤 真	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	宮城県小中学校1.5年, 山形県小学校9年, 上越教育大学及び大学院におけるティーチングアシストおよびティーチングサポート(授業支援, 学生支援)2年, 教員養成学部の教育研究職助手5年						
授業のねらい (到達目標)	幼稚園教諭等をはじめとする教職に対する理解を深めるとともに, 専門職としての教師に必要な素養の質的向上を図る。						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・教師像の歴史の変遷 ・教師の特性 ・教職を取り巻く現況 ・指導計画作成 ・教育実習 ・教員研修 						
テキスト	豊岡短期大学「教職論」						
授業計画	第1回	教員, 教師, 教職, 教職員の違い					
	第2回	教員, 教師, 教職, 教職員の違い					
	第3回	教師像の歴史の変遷					
	第4回	教育課程と教師					
	第5回	教師の特性					
	第6回	教師の身分, 懲戒, 権利等					
	第7回	教師の身分, 懲戒, 権利等					
	第8回	教師を取り巻く現況					
	第9回	教師を取り巻く現況					
	第10回	指導計画の作成					
	第11回	教師対象の研修, 初任者研修と10年経験者研修					
	第12回	教師対象の研修, 初任者研修と10年経験者研修					
	第13回	校種を超えた連携, 幼小接続					
	第14回	校種を超えた連携, 幼小接続					
	第15回	校種を超えた連携, 幼小接続					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども学科	実施学年	1学年	開講期	後期
科目名	保育の計画と評価	授業形態	講義	単位数	2単位
担当教員	高木 亜紀	実務経験の有無	○		
実務経験教員の経歴	幼稚園教諭として多くの幼児や保護者と関わった経験、学童保育指導員として小学生の生活や学習に関わった経験、子育てに関する活動(育児サークル主宰、企業による子どもを対象とした職業体験学習など)をもとに授業を行う。				
授業のねらい (到達目標)	乳幼児保育における長期的な見通し、職員全員の共通認識、計画の重要性や作成方法について理解する。PDCAサイクルについて理解し、自身と園全体の保育の見直しが、保育の質の向上につながることを学ぶ。				
授業概要	保育の長期的見通し、教職員の共通認識、指導計画の重要性と計画の作成法を学ぶ。また、「計画・実践・反省・改善」の関連性についての事例を理解すると共に、保育の省察から子ども理解と保育の見直しについて掘り下げ、一人ひとりに即した保育の実践能力を培う。				
テキスト	田中亨胤他「教育課程論」豊岡短期大学、「幼稚園教育要領解説 平成30年3月 文部科学省」フレーベル館、「保育所保育指針解説 平成30年3月 厚生労働省」フレーベル館、「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省」フレーベル館				
授業計画	第1回	【幼稚園・保育所・認定子ども園について】教科書を見て授業内容と幼稚園・保育所・認定子ども園の違いについて学びます。			
	第2回	【全体的な計画について】園でいう計画とは何か。なぜ保育をするには計画が必要なのかを学びます。			
	第3回	【教育課程・全体的な計画の編成方法①】教育課程と全体的な計画とは何か。また、それらが、園の中でどのように編成されるのか、手順を学びます。			
	第4回	【教育課程・全体的な計画の編成方法②】手順、形式、記入内容を学びます。			
	第5回	【教育課程・全体的な計画の編成方法③】編成の際の配慮する点を学びます。			
	第6回	【指導計画との関係について】教育課程や全体的な計画は、全ての指導計画のもとになり、職員全員に共通理解を与えるものであることを理解しましょう。			
	第7回	【指導計画の作成方法】指導計画を作成する時は、子どもの実際の活動や経験をイメージしながら、実践に結びつけやすく、無理のないように具体的に作成することを学びます。			
	第8回	【年間指導計画について】年間指導計画とは何かを理解しながら実際に作成してみましょう。			
	第9回	【月間指導計画について】月間指導計画とは何かを理解しながら実際に作成してみましょう。			
	第10回	【週日案について】週日案とは何かを理解しながら実際に作成してみましょう。			
	第11回	【デイリープログラムについて】日案との違いは何かを理解しながら実際に作成してみましょう。			
	第12回	【保育における記録と反省】計画し、実践し、評価反省をすることにより、次の課題が見つかることを学びます。			
	第13回	【保育における評価と改善】計画し、実践し、評価反省をすることにより、次の課題が見つかることを学びます。反省と評価には様々な方法があることも学びます。			
	第14回	【現代の保育ニーズや他国の教育課程について】目まぐるしく変化する社会と子育てについて学びます。また、他国との保育の違いについて学ぶことにより、他国の良さ、私たちの保育の良さを発見することができます。これから生きる保育者として、日本の保育の課題は何かを考えましょう。			
	第15回	【期末試験】			
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10% 出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する					

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	前期									
科目名	保育内容総論	授業形態	講義	単位数	1単位									
担当教員	原田 明子	実務経験の有無		○										
実務経験教員の経歴	私立幼稚園・保育所での勤務経験から、現場で行われている保育と理論が一致する実践的指導を行う。													
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・養護と教育が一体となった保育、領域の考え方や保育内容を総合的に理解する。 ・園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育実践と結び付ける。 													
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1) 領域別に学んだ内容を実際の子どもの姿と結びつけて総合的に理解する。 2) 保育所保育指針等に基づく保育内容の基本的理解が深まるようにする。 													
テキスト	「保育内容総論」「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「認定こども園教育保育要領」													
授業計画	第1回	保育の全体構造(1) 保育とは、幼稚園・保育所・認定こども園とは												
	第2回	保育の全体構造(2) 指針・要領と養護と教育に一体化												
	第3回	保育の全体構造(3) 領域の考え方と乳児保育												
	第4回	乳幼児にふさわしい生活と保育内容(1)環境を通しての保育												
	第5回	乳幼児にふさわしい生活と保育内容(2)遊びによる総合的保育												
	第6回	乳幼児にふさわしい生活と保育内容(3)生活と遊びと保育者の役割												
	第7回	乳幼児にふさわしい生活と保育内容(4)保育者の役割まとめ												
	第8回	乳幼児にふさわしい生活と保育内容(5)幼保小の連携について												
	第9回	科目修了テスト												
	第10回	全体的な計画の作成と指導計画(1)全体的な計画の作成												
	第11回	全体的な計画の作成と指導計画(2)指導計画の作成手順と配慮												
	第12回	保育の評価と保育の記録(1)幼児理解に基づく評価												
	第13回	保育の評価と保育の記録(2)観察記録を書く意味と幼児理解												
	第14回	保育内容の歴史的変遷												
	第15回	期末テスト												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	後期									
科目名	こどもの指導法「人間関係」	授業形態	演習	単位数	1単位									
担当教員	原田 明子	実務経験の有無	○											
実務経験教員の経歴	私立幼稚園・保育園での勤務経験から、子どもの発達を促す保育内容について理論に基づき実践的指導を行う。													
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針・幼稚園教育要領における領域人間関係のねらいや内容の取扱いについて理解する。 ・人間関係の発達や自立心・協同性の発達を理解し、保育実践に応用できる。 													
授業概要	1) 事例を用い、さまざまな子どもの人と関わる力の育ちを考察する。 2) 保育者としてどのように人と関わる力を育てていくのか、保育者として子どもとどのような関係を築いていくか考察する。													
テキスト	豊岡短期大学「人間関係論」、保育所保育指針解説													
授業計画	第1回	保育の基本と人との関わり												
	第2回	演習1「私は誰」「対人関係図」、ワークシート1												
	第3回	乳児期における人との関わりでの発達、ワークシート2												
	第4回	遊びの中で育つ人との関わり、演習3、ワークシート3												
	第5回	人との関わりを育てる保育の充実・保育者の役割												
	第6回	人との関わりが難しい子どもへの支援												
	第7回	園、家庭、地域の生活と人との関わり												
	第8回	演習4、事例 グループワーク												
	第9回	ワークシート4、領域人間関係をめぐる諸問題												
	第10回	インドプロジェクトの事例から保育内容を考察する												
	第11回	インドプロジェクトの事例から5領域の関連を考察する												
	第12回	子どもの人と関わる力を育む保育内容を考える												
	第13回	子どもの人と関わる力を育む保育内容を考える(ロールプレイ①)												
	第14回	子どもの人と関わる力を育む保育内容を考える(ロールプレイ②)												
	第15回	スクーリングテスト												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	前期		
科目名	言葉	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	板垣 裕	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	幼児教育施設での勤務経験を活かし、実践的な授業を行う。						
授業のねらい (到達目標)	領域『言葉』の内容、その他の領域との相互性を学び、言葉の発達の大切さを理解することができる。						
授業概要	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどものへの先達となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深め、発達段階に合わせた関わりと言葉がけの大切さを理解すると共に、文字への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についても学ぶ。						
テキスト	新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 言葉						
授業計画	第1回	言葉とは何か？ 私たちが言葉を使って行っていること					
	第2回	母語・日本語の特徴					
	第3回	言葉の形態(聞く話す読む書く)					
	第4回	言葉の役割①					
	第5回	言葉の役割②					
	第6回	言葉の発達(誕生期～乳児期)①					
	第7回	言葉の発達(誕生期～乳児期)②					
	第8回	言葉の発達(幼児期)					
	第9回	保育者の関わり(誕生期～乳児期)					
	第10回	保育者の関わり(幼児期)					
	第11回	豊かに言葉を育む活動①【語用論】					
	第12回	豊かに言葉を育む活動②児童文化財					
	第13回	豊かに言葉を育む活動②児童文化財					
	第14回	言葉の問題② 障害					
	第15回	視聴覚教材【ピンク帽子のドレミファソ】					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	前期		
科目名	表現	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	小見 英晴	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	幼稚園教諭7年 リトミック指導28年						
授業のねらい (到達目標)	保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も併せて修得する。						
授業概要	幼稚園教育要領、保育所諸育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を自らの音楽表現や身体表現、言語表現、造形表現から学習する。						
テキスト	「改訂4版 幼児の音楽教育法 美しい歌声をめざして」 ふくろう出版 吉富 功修・三村 真弓 編著						
授業計画	第1回	領域「表現」についての基本的な考え方 「表現」についての洞察					
	第2回	領域「表現」の指導案において求められる表現の捉え方と評価 小学校の教科とのつながりについての理解					
	第3回	基礎リズム 基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点					
	第4回	幼児期の身体的・精神的発達をふまえた指導法の理解					
	第5回	基本動作 幼児の心情・認識・思考・動きをふまえた基本動作					
	第6回	日常生活が表現につながる可能性に気づき、観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法					
	第7回	CD等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解					
	第8回	童謡やわらべうたについての多様な振付の実践 幼児の表現したい気持ちを育む指導法の実践					
	第9回	楽器の製作と活用、製作した楽器を用いての指導案の作成					
	第10回	楽器の取り扱いと身近な素材を使った楽器製作 指導案作成の基礎を理解し、指導案の作成					
	第11回	領域「表現」と幼保小のつながり					
	第12回	オノマトペ(擬態語・擬音語・擬声語)の表現方法について					
	第13回	表現する力を育てるための保育者の役割と援助について					
	第14回	絵本のストーリーを取り入れた模擬保育の実践 保育構想発展のための相互発表による振り返り					
	第15回	リズム遊びを用いた創作発表					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	前期
科目名	音楽表現 I	授業形態	演習	単位数	1 単位
担当教員	石川美穂・川内菜央・寺内めぐみ・市嶋融介	実務経験の有無	○		
実務経験教員の経歴	各講師それぞれが、音楽教室・自宅でのピアノ指導歴数十年、またソロの演奏活動、声楽(他楽器)の伴奏等の経験より、初心者からレベルの高い学生まで幅広い指導を行うことができ、「音楽による表現」へのアプローチ、コードによる伴奏付け等のアドバイスをを行っている。				
授業のねらい (到達目標)	音を間違え、途中で止まる、弾き直すなどのない演奏をする。 楽曲のテンポを正しくとり、音楽の流れを中断しないようにする。 抑揚のある表情豊かな演奏を心がけたとえ練習曲であっても美しい音楽作品になるように心がける。				
授業概要	本科目では、楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識、技術を身につけ、対象者に合わせた音楽活動について考察する。また、保育・教育・福祉等の現場に即した音楽活動について体験的な学習をする。				
テキスト	「こどもの指導法『音楽表現』」「バイエルピアノ教則本」「保育の四季 幼児の歌110曲集」				
授業計画	第1回	本科目の概要の説明。「こどもと音楽表現」「バイエルピアノ教則本」各テキストと「幼児の歌110曲集」より、テクニックを身につけながら実践で活用できるレパートリーを増やす。個々のレベル把握。			
	第2回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。初心者は初歩の課題から音読み・リズム・運指に慣れる。			
	第3回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。初心者は初歩の課題から音読み・リズム・運指に慣れる。			
	第4回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。初心者は初歩の課題から音読み・リズム・運指に慣れる。			
	第5回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。初心者は初歩の課題から音読み・リズム・運指に慣れる。			
	第6回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。初心者は初歩の課題から音読み・リズム・運指に慣れる。			
	第7回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。初心者は初歩の課題から音読み・リズム・運指に慣れる。			
	第8回	中間試験			
	第9回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。			
	第10回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。			
	第11回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。			
	第12回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。			
	第13回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。			
	第14回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。			
	第15回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。			
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10% 出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する					

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	後期		
科目名	造形表現 I	授業形態	演習	単位数	1 単位		
担当教員	渡邊 恵美	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	高等学校美術科非常勤講師						
授業のねらい (到達目標)	乳幼児造形教育の指導・援助者として、必要な形や色や質感等の基礎的な知識及び技能について理解ができる。 えがく、つくる、造形あそびの領域の製作を通して、基礎的な知識及び技能について習得できる。 教材研究及び発表を行うことで思考力や表現力を高めることができる。						
授業概要	幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとに色彩分割及び構成学習を行う。また、具体的な描写によって観察力を養い、合わせて用具や描画材の特性を利用してさまざまな表現技法から想像力を高め、体験的に理解する。さらに、さまざまな素材をもとに、それらの特性を活かして創意工夫しながら製作を展開し、平面及び立体における造形教育に必要な知識や技術を身につける。						
テキスト	造形表現論(豊岡短期大学)						
授業計画	第1回	幼児造形教育の重要性と研究の視点について					
	第2回	幼児造形(表現)の特徴・領域・道筋について					
	第3回	えがく領域に伴う製作I(えがく活動における指導・援助と実際)					
	第4回	えがく領域に伴う製作I(えがく活動における指導・援助と実際)					
	第5回	つくる領域に伴う製作I(つくる活動における指導・援助と実際)					
	第6回	つくる領域に伴う製作I(つくる活動における指導・援助と実際)					
	第7回	造形あそびの領域に伴う製作III(造形遊びにおける指導・援助と実際)					
	第8回	造形あそびの領域に伴う製作III(造形遊びにおける指導・援助と実際)					
	第9回	作品の研究及び発表					
	第10回	作品の研究及び発表					
	第11回	作品の研究及び発表					
	第12回	作品の研究及び発表					
	第13回	作品の研究及び発表					
	第14回	幼児造形教育の課題について					
	第15回	まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	後期		
科目名	乳児保育 I	授業形態	講義	単位数	2 単位		
担当教員	原田 明子	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	私立乳児園での勤務経験から、現場で求められる乳児保育担当者の資質・能力が培われるよう、実践的指導を行う。						
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の理念と役割を理解する ・3歳未満児の発達を理解し、個々の発達を促す保育内容とは何か考える。 						
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1) 乳児保育の理念・役割・発達を理解し、学んだことを整理しまとめる。 2) 事例をとおして、乳児のかかわり方を知る。 						
テキスト	豊岡短期大学「乳幼児保育」、保育所保育指針、日本が誇る丁寧な保育、0.1.2.歳児の発達と保						
授業計画	第1回	「赤ちゃんの不思議」を視聴し、赤ちゃんのしらせざる能力を知り、乳幼児に興味をもつ					
	第2回	乳児保育とは 乳児保育の基本と子どもの最善の利益について					
	第3回	乳児保育における「養護」と「教育」の一体性とは					
	第4回	乳児保育の歴史と現代における乳児保育の役割と機能					
	第5回	0歳児の発達特徴と保育者の援助					
	第6回	1歳児の発達特徴と保育者の援助					
	第7回	2歳児の発達特徴と保育者の援助					
	第8回	乳児の発達を促す保育者の関わり(事例)①					
	第9回	乳児の発達を促す保育者の関わり(事例)②					
	第10回	保育所における子育て支援					
	第11回	乳児保育と子育て支援					
	第12回	乳児の衛生面・安全面を7考慮した保育のあり方					
	第13回	乳児の生活習慣を育む保育者の援助・配慮について					
	第14回	赤ちゃんの記録づくりを通し、赤ちゃんが保護者にとってどれほど大切かを学ぶ					
	第15回	科目修了テスト					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	通年(前期)	
科目名	保育実習指導 I	授業形態	演習	単位数	2 単位	
担当教員	高木 亜紀	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	幼稚園教諭として多くの幼児や保護者と関わった経験、学童保育指導員として小学生の生活や学習に関わった経験、子育てに関する活動(育児サークル主宰、企業による子どもを対象とした職業体験学習など)をもとに授業を行う。					
授業のねらい (到達目標)	①実習のマナーや保育者としての倫理などに理解を深める。 ②保育用語を知り、文章力を身につける。 ③模擬保育を通して保育者の配慮に気がつき実践する。 ④グループ園実習を通して保育を観察する力を養う。 ・子どもの育ちについて ・保育者の援助やその意図について ・保育環境やその意図について					
授業概要	①テキストを通して、実習のマナーや保育者の倫理などについて理解を深める。 ②グループ園実習の指導案や日誌を実際に行き、子どもの育ちや保育者の援助などに理解を深める。 ③グループ園実習から0歳～5歳の育ちと必要な援助等を学ぶ(エピソードを通して理解を深める)					
テキスト	「実習のしおり」、長島和代編「保育の基本用語」わかば社、「幼稚園教育要領解説 平成30年3月 文部科学省」フレーベル館、「保育所保育指針解説 平成30年3月 厚生労働省」フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省」フレーベル館、大豆生田啓友ほか編著「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規					
授業計画	第1回	・授業の進め方や受け方について ・実習のマナーや保育者としての倫理について ・グループ園実習について(冊子:「グループ園実習のしおり」より)				
	第2回	・グループ園実習(1日実習1回目)に向けての、実習の仕方やマナーについて ・子どもの育ちや必要な援助について				
	第3回	子どもの育ちや必要な援助について				
	第4回	子どもの育ちや必要な援助について				
	第5回	3歳～5歳の育ちや援助の視点について グループ園実習(2日実習1回目)に向けて、実習のマナーを確認				
	第6回	日誌の書き方を指導する(3歳～5歳)				
	第7回	(グループ園実習2日実習1回目の観察記録を基に日誌を書いてみる)				
	第8回	0歳～2歳児の育ちや援助の視点について グループ園実習(2日実習2回目)に向けて、実習のマナーを再確認 2日実習1回目の日誌の書き直し				
	第9回	日誌の書き方を指導する(0歳～2歳)				
	第10回	(グループ園実習2日実習2回目の観察記録を基に日誌を書いてみる)				
	第11回	参加実習(メモを取りながら)の仕方やマナーについて 2日実習2回目の日誌の書き直し				
	第12回	日誌の書き方を指導する				
	第13回	(グループ園実習1日実習3回目の日誌を書く)				
	第14回	グループ園実習1週間実習1回目に向けての準備をする ・絵本の指導案の書き方について ・年齢に合った絵本の選定				
	第15回	部分実習指導案『絵本の読み聞かせ』を立案する				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	通年(後期)		
科目名	保育実習指導 I	授業形態	演習	単位数	2単位		
担当教員	高木 亜紀	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	幼稚園教諭として多くの幼児や保護者と関わった経験、学童保育指導員として小学生の生活や学習に関わった経験、子育てに関する活動(育児サークル主宰、企業による子どもを対象とした職業体験学習など)をもとに授業を行う。						
授業のねらい (到達目標)	①望まれる保育者の姿に関心を持ち、自身を振り返り、保育者としての在り方を身に付ける。 ②指導案の立て方を知る(部分実習指導案・責任実習指導案) ③日々の『ねらい』をしっかりとって実習することの大切さに気付く。						
授業概要	①テキストと保育現場での実際をリンクさせながら、求められる保育者像について学ぶ。 ②グループ園実習を通して、めあてをもった実習の大切さを伝える。 ③育ちに合ったテーマの選び方や指導案の立案の仕方を指導(部分実習指導案・責任実習指導案) ④外部実習に向けての準備を進める。						
テキスト	「実習のしおり」、長島和代編「保育の基本用語」わかば社、「幼稚園教育要領解説 平成30年3月 文部科学省」フレーベル館、「保育所保育指針解説 平成30年3月 厚生労働省」フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省」フレーベル館、大豆生田啓友ほか編著「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規						
授業計画	第1回	グループ園実習に向けて…めあてとは					
	第2回	年齢(発達)にあった制作活動について学び、次回の実習で行う制作のテーマを考える					
	第3回	制作の指導案の立案の仕方を学び、実際に立案してみる					
	第4回	制作の指導案を立案する					
	第5回	年齢(発達)にあった遊びや運動等について学び、次回の実習で行う遊びのテーマを考える					
	第6回	遊び(運動)の指導案の立案の仕方を学び、実際に立案してみる					
	第7回	遊び(運動)の指導案を立案する					
	第8回	グループ園実習2回目に向けて準備をする					
	第9回	責任実習指導案の立て方を学ぶ					
	第10回	責任実習指導案を立案する					
	第11回	責任実習指導案を立案する					
	第12回	オリエンテーションに受け方について学ぶ					
	第13回	望まれる保育者の姿について学ぶ					
	第14回	望まれる保育者の姿について学ぶ					
	第15回	外部実習に向けて準備を進める					
単位認定 ・ 評価方法	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	前期		
科目名	造形表現Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	渡邊 恵美	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	高等学校美術科非常勤講師						
授業のねらい (到達目標)	こどもの表現や発達をイメージしながら、美術・造形の基礎・基本が身につく、実際に役立つような理論と教材研究を体得する。実技においても単に制作するのではなく、子どもの表現、発達、発想を常にイメージし、教育の現場に立った時を考えながら制作活動をする。						
授業概要	単なる美術・造形ではなく、幼児・児童に即した造形表現の教材を視野に入れて、子どもが楽しく造形活動ができる教材のあり方、支援の仕方、指導のあり方についても考えに入れながら、理論と実技の両面から実践的に研究をする。						
テキスト	「造形表現論」豊岡短期大学						
授業計画	第1回	人と美術造形表現について					
	第2回	美術・造形分野について					
	第3回	色・色彩について①					
	第4回	色・色彩について②					
	第5回	色・色彩について③					
	第6回	形の構成 構成の原理①					
	第7回	形の構成 構成の原理②					
	第8回	形の構成 構成の原理③					
	第9回	いろいろな表現技法について①					
	第10回	いろいろな表現技法について②					
	第11回	いろいろな表現技法について③					
	第12回	立体造形表現①					
	第13回	立体造形表現②					
	第14回	鑑賞					
	第15回	造形教育のまとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	前期		
科目名	音楽基礎	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	石川 美穂	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	個人教室でのピアノレッスンの他、障害児施設での余暇講師としてピアノ演奏を行う。また、定期的に演奏会やオーディションに参加することで自ら技術の向上を目指す。						
授業のねらい (到達目標)	子どもの豊かな感性や表現力、想像力を育むために、指導者に必要な音楽的技術を身に付け、保育者としての感性を養う。						
授業概要	1) 楽譜を読むための音楽的基礎知識を学ぶ 2) 音楽表現における乳幼児の発達過程を学び、指導者としての感性を養う。						
テキスト	・豊岡短大テキスト「音楽表現論」 ・「保育の四季 幼児の歌110曲集」						
授業計画	第1回	幼児教育における音楽の役割について					
	第2回	基礎知識① 音の高低 楽譜の読み方 音名と臨時記号					
	第3回	基礎知識② 音の長短 拍子記号					
	第4回	基礎知識③ 速度表示 強弱記号					
	第5回	基礎知識④ 奏法記号 省略記号					
	第6回	調性について① 音階					
	第7回	調性について② 主音と調号					
	第8回	和声とコード① 度数 音程					
	第9回	和声とコード② 三和音 コードネーム					
	第10回	中間試験 コードネームから伴奏付けを行う					
	第11回	レポート対策					
	第12回	レポート対策					
	第13回	レポート対策					
	第14回	科目終了試験					
	第15回	前期期末試験					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	後期		
科目名	リトミック I	授業形態	演習	単位数	1 単位		
担当教員	小見 英晴	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	幼稚園教諭7年 リトミック指導16年						
授業のねらい (到達目標)	「幼稚園・保育園のためのリトミック2級指導資格」を取得することをねらいとする。						
授業概要	「幼稚園・保育園のための2級指導資格」を取得することをねらいとし、そのためのリズム、ティーチング、リズムの演奏法を修得する。						
テキスト	「幼稚園、保育園のためのリトミック 3歳児用」 「幼稚園、保育園のためのリトミック4歳児用」 「幼稚園、保育園のためのリトミック 5歳児用」						
授業計画	第1回	リトミックについて 楽しいリトミックの経験					
	第2回	楽しいリトミックの経験 強弱・テンポ・空間・アクセント					
	第3回	基礎リズム 基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点					
	第4回	3歳児指導法-1学期 リズムの演奏法(3歳児指導法-1学期)					
	第5回	楽しいリトミックの経験 基礎的な動き					
	第6回	基礎リズム(2拍子) 拍子					
	第7回	3歳児指導法-2学期 リズムの演奏法(3歳児指導法-2学期)					
	第8回	楽しいリトミックの経験 基礎リズム(2拍子)					
	第9回	拍子 ティターティ・ターイティを含む					
	第10回	3歳児指導法-3学期 リズムの演奏法-3学期					
	第11回	楽しいリトミックの経験 基礎リズム(3・4拍子)					
	第12回	拍子 楽しいリトミックの経験					
	第13回	リズムカノン導入 リズムフレーズ2・3拍子					
	第14回	リズムの演奏法(3歳児指導法-1~3学期) リトミックの理論とダルクルーズについて					
	第15回	2級 資格認定試験					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	通年
科目名	基礎実習	授業形態	実習	単位数	3単位
担当教員	実習専任教員	実務経験の有無	○		
実務経験教員の経歴	保育園・幼稚園・小学校等の該当実習施設での勤務経験				
授業のねらい (到達目標)	<p>1. 実習生の姿勢・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習に関するマナーや職業倫理について知る。 ・実習を通して、子どもたちと一緒に遊びながら子どもと関わることの楽しさを味わい、保育者の仕事に関心を深め期待を高める。 ・提出物は期日を守る。 <p>2. 知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園生活の一日の流れを理解する。 ・子どもの発達過程を理解し、保育環境や援助の在り方についても考えてみる。 ・簡単な保育実技を身につけ、グループ園で体験してみる。 <p>3. 実習日誌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日誌の意義、記入上の諸注意について学び理解する。 ・メモのとり方や日誌の書き方を学び、グループ園実習を通して実際に日誌を書いてみる。 <p>4. 指導案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案とは何かを知り、立案の仕方を学ぶ。 ・グループ園実習に向けて、年齢に合った指導案を作成し、実際に体験してみる。 				
授業概要	<p>グループ園実習を通して、学校で学ぶ倫理と園での保育実践のすり合わせをしながら、子どもの発達や保育者のかかわりを体験的に理解し、様々な技術を習得する。</p> <p>また、社会人としての道義・礼節・常識についても気づき、身につける。</p>				
単位認定 ・ 評価方法	<p>実習園による評価(出勤状況・実習態度・職務理解・施設理解・幼児理解等の評価)及び実習日誌を総合して評価をする。</p> <p>上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する</p>				

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	通年(後期)	
科目名	音楽表現Ⅱ	授業形態	演習	単位数	2単位	
担当教員	石川美穂・川内菜央・寺内めぐみ・市嶋融介	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	各講師それぞれが、音楽教室・自宅でのピアノ指導歴数十年、またソロの演奏活動、声楽(他楽器)の伴奏等の経験より、初心者の学生からレベルの高い学生まで幅広い指導を行うことができ、「音楽による表現」へのアプローチ、コードによる伴奏付け等のアドバイスをを行っている。					
授業のねらい (到達目標)	音を間違え、途中で止まる、弾き直すなどのない演奏をする。 楽曲のテンポを正しくとり、音楽の流れを中断しないようにする。 抑揚のある表情豊かな演奏を心がけたとえ練習曲であっても美しい音楽作品になるように心がける。					
授業概要	本科目では、楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識、技術を身につけ、対象者に合わせた音楽活動について考察する。また、保育・教育・福祉等の現場に即した音楽活動について体験的な学習をする。					
テキスト	「こどもの指導法『音楽表現』」「バイエルピアノ教則本」「保育の四季 幼児の歌110曲集」					
授業計画	第1回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第2回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第3回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第4回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第5回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第6回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第7回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第8回	中間試験				
	第9回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第10回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第11回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第12回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第13回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第14回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第15回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	前期	
科目名	人間関係論	授業形態	講義	単位数	1単位	
担当教員	原田 明子	実務経験の有無		○		
実務経験教員の経歴	私立幼稚園・保育園での勤務経験から、子どもの発達を促す保育内容について理論に基づき実践的指導を行う。					
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容を構成する人間関係の基礎理論を理解する。 ・子どもの発達とともに人間関係がどのように広がり、深まっていくのかを理解する。 ・保育の全体構造における人間関係に関して総合的に援助・指導が行えるような理論や知識を習得する。 					
授業概要	1) 乳幼児を取り巻く人的環境について理解する。 2) 現代社会の人間関係の諸問題を理解し、子どもが豊かな人と関わる力を育成するための、保育者の指導・援助などのかかわり方を理解する。					
テキスト	豊岡短期大学「人間関係論」、保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説					
授業計画	第1回	子どもの育つ環境を理解し、環境からさまざまな影響を受ける他者と関係				
	第2回	子どもを取り巻く環境と子どもが人と関わる力を育てるには				
	第3回	領域人間関係のねらいと内容				
	第4回	メディアが子どもの成長に与える影響				
	第5回	人間関係作りを支える保育者の役割				
	第6回	基本的信頼関係と人間関係				
	第7回	自己主張・葛藤体験・他者需要とは				
	第8回	遊びの中で育つ人と関わる力①				
	第9回	遊びの中で育つ人と関わる力②				
	第10回	乳児期の人との関わり				
	第11回	幼児期と人との関わり				
	第12回	主体性、自発性、自立性、創造性など個の育ちと集団の関係性				
	第13回	幼児期と学童期の育ちの連続性と人と関わる力				
	第14回	まとめ：乳幼児期の人と関わる力を育てるとは				
	第15回	科目終了試験				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	前期		
科目名	教育方法論	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	斎藤 真	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	宮城県小中学校1.5年, 山形県小学校9年, 国立大大学及び大学院におけるティーチングアシストおよびティーチングサポート(授業支援, 学生支援)2年, 私大教員養成学部の教育研究職助手5年						
授業のねらい (到達目標)	実践的指導力を有する教員としての資質を高められるように, 基礎的な知識習得と教育現況をつかめるようにする。						
授業概要	①教育方法の定義と意義 範囲 ②教育方法の歴史 ③教育技術と情報機器活用 ④教育方法の手段(教具と教材) ⑤児童側に立った教育方法の特徴 ⑥授業分析と授業展開 ⑦幼小の接続 ⑧指導計画作成						
テキスト	豊岡短期大学「教育方法論」						
授業計画	第1回	教育方法とは何か					
	第2回	教育方法の歴史					
	第3回	教育方法の手段, 手立て					
	第4回	教育技術(教具・教材・板書)					
	第5回	情報活用機器					
	第6回	幼小の接続					
	第7回	幼小の接続					
	第8回	園児・児童側に立つ教育方法					
	第9回	園児・児童側に立つ教育方法					
	第10回	記録と評価					
	第11回	記録と評価					
	第12回	記録と評価					
	第13回	記録と評価					
	第14回	記録と評価					
	第15回	まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	後期	
科目名	教育実習事前指導	授業形態	演習	単位数	1単位	
担当教員	高木 亜紀	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	幼稚園教諭として多くの幼児や保護者と関わった経験、学童保育指導員として小学生の生活や学習に関わった経験、子育てに関する活動(育児サークル主宰、企業による子どもを対象とした職業体験学習など)をもとに授業を行う。					
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義、目的、心構えを学ぶ。 ・子どもと関わりながら幼児理解を深め、実践力を身に付ける。 ・指導案や日誌の書き方を理解する。 ・振り返りをし、自己評価を行い自己課題を明確にする。 					
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> ①教育実習の意義と目的、実習生との心構えを学ぶ。 ②幼児の発達の特長や発達過程を学ぶ。 ③幼児理解や観察の視点、方法、指導案作成等の習得に努める。 ④目標を持って実習に臨む態度を育成する。 ⑤実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。 					
テキスト	「幼稚園教育実習事前・事後指導」豊岡短期大学、「保育者の常識67」、DVD「幼児とのかかわりを考える」、「幼稚園教育要領解説」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」					
授業計画	第1回	実習の意義と目的・幼稚園教育の特質				
	第2回	実習生としての心構え				
	第3回	実習生としての心構え				
	第4回	子どもを取り巻く環境(環境構成)・幼児理解と保育				
	第5回	子どもを取り巻く環境(環境構成)・幼児理解と保育				
	第6回	教師の援助、保護者理解と支援				
	第7回	教師の援助、保護者理解と支援				
	第8回	教師の援助、特別な支援を要する子どもへの対応				
	第9回	教師の援助、特別な支援を要する子どもへの対応				
	第10回	実践演習:子ども理解に基づいた援助				
	第11回	実践演習:部分実習				
	第12回	実践演習:責任実習				
	第13回	実践演習:責任実習				
	第14回	実践の評価、自分の課題の明確化				
	第15回	実践の評価、自分の課題の明確化				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	前期									
科目名	子ども家庭福祉	授業形態	講義	単位数	2単位									
担当教員	渡邊 みゆき	実務経験の有無		○										
実務経験教員の経歴	子どもへの援助や保護者支援などの現場経験から、保育者に求められる子ども家庭福祉の法制度などの知識について教授する。													
授業のねらい (到達目標)	現代社会におけるこども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解するとともに、制度や関係機関の実施体制について学びを深めていく。あわせて、子どもの人権に目を向けながらこども家庭福祉の現状と課題についての考察を深めることで、今後の展望について見極める機会とする													
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会におけるこども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 ・子どもの人権擁護について理解する ・こども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 ・こども家庭福祉の現状と課題について理解する。 													
テキスト	「子ども家庭福祉」 豊岡短期大学													
授業計画	第1回	オリエンテーション												
	第2回	こども家庭福祉の理念と概念												
	第3回	貧困家庭、ひとり親家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応①												
	第4回	貧困家庭、ひとり親家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応②												
	第5回	障害のある子どもへの対応①												
	第6回	障害のある子どもへの対応②												
	第7回	多様な保育ニーズへの対応①												
	第8回	多様な保育ニーズへの対応②												
	第9回	制度と法体系、実施体系①												
	第10回	制度と法体系、実施体系②												
	第11回	児童虐待、DV①												
	第12回	児童虐待、DV②												
	第13回	少年非行等への対応												
	第14回	母子保健と子どもの健全育成												
	第15回	こども家庭福祉の動向と展望												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	2学年	開講期	前期	
科目名	こどもの指導法「造形表現」	授業形態	演習	単位数	1単位	
担当教員	渡邊 恵美	実務経験の有無		○		
実務経験教員の経歴	高等学校美術科非常勤講師					
授業のねらい (到達目標)	1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。					
授業概要	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。					
テキスト	造形表現論(豊岡短期大学)					
授業計画	第1回	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域及び小学校との連携(「図画工作」の学習指導要領)				
	第2回	造形教育の思想と指導法の推移及びこどもの発達段階における表現の特徴				
	第3回	こどもの発達段階における表現の指導・援助(指導案)と評価				
	第4回	こどもの発達段階における表現の指導・援助(指導案)と評価				
	第5回	教材研究を伴う製作I(えがく)				
	第6回	教材研究を伴う製作I(えがく)				
	第7回	教材研究を伴う製作I(つくる)				
	第8回	教材研究を伴う製作I(つくる)				
	第9回	教材研究を伴う製作Ⅲ(造形あそび)				
	第10回	教材研究を伴う製作Ⅲ(造形あそび)				
	第11回	実践的な指導法(模擬保育等)の学習(えがく・つくる・造形あそび)				
	第12回	実践的な指導法(模擬保育等)の学習(えがく・つくる・造形あそび)				
	第13回	実践的な指導法(模擬保育等)の学習(えがく・つくる・造形あそび)				
	第14回	えがく、つくる、造形あそびの保育展開(指導法)と情報機器及び教材の活用まとめ				
	第15回	えがく、つくる、造形あそびの保育展開(指導法)と情報機器及び教材の活用まとめ				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども学科	実施学年	1学年	開講期	通年
科目名	教育実習	授業形態	実習	単位数	4単位
担当教員	実習専任教員	実務経験の有無	○		
実務経験教員の経歴	保育園・幼稚園・小学校等の該当実習施設での勤務経験				
授業のねらい (到達目標)	<p>1. 実習生の姿勢・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> マナーを守り、意欲的に取り組む 礼儀正しく、謙虚な姿勢で学ぶ 自分から進んで質問をし、実践的な学びを深める 実習園の特色や保育方針を理解し、課題を明確にして実習に臨む 「今日の課題」を考察し、「明日の課題」を明確にしながら学びを積み上げようとする 「個」と「集団」に積極的に関わり、観察し学びを深める <p>2. 知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児の「前に立つ」ための準備をして実習に臨む 3歳児から5歳児の発達を理解し実習に臨む 保育におけるPDCAサイクルを理解する ピアノや絵本の読み聞かせなど、保育技術を磨いて実習に臨み、実践の場においてさらなる向上を目指す 幼児の言動から心情を感じとりながら、関わる事ができる <p>3. 実習日誌</p> <ul style="list-style-type: none"> 各年齢の発達の特徴や保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができる 幼児に対する保育者の働きかけを具体的に記録できる 幼児の姿を観察し、場面の記録を書くことができる 「気づき」を書く事ができる 保育者の意図を感じ取り「学び」や「気づき」を書くことができる 「個」と「集団」の姿を記録できる 幼児との関わりを詳細に記録し、省察することができる <p>4. 指導案</p> <ul style="list-style-type: none"> ※教育実習Ⅰでは、記録に重点を置き、指導案は教育実習Ⅱの課題とする 子どもの姿を予測し、配慮事項や留意点を挙げる事ができる 導入、展開、まとめを一連の流れとして立案できる <p>5. 手続きと提出物</p> <ul style="list-style-type: none"> 期日を守り、自主的に進められる 期日を確認し、計画的に進められる 				
授業概要	<p>実際に幼稚園の生活を体験する中で、園生活の流れと幼児の生活、発達の姿、幼稚園教諭の職務を理解できるように指導する。</p> <p>教育実習Ⅰでの経験を基礎として、観察や指導案に基づいた実践を行う。幼稚園の教育理念や教育課程を把握し、「個」と「集団」の理解、幼稚園教諭の職務に対する理解等がさらに深まるよう指導する。また、指導案を作成し実践的な体験を通して学べるよう指導する。</p>				
単位認定 ・ 評価方法	<p>実習園による評価(出勤状況・実習態度・職務理解・施設理解・幼児理解等の等の基準に基づく)及び実習日誌を総合して評価をする。</p> <p>上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する</p>				